

霊場巡礼の散策ルートマップにみる地域観光の領域イメージ

奥山研究室 21M50137 黒田 紗綾 (KURODA,Saya)

1. 序 日本における霊場巡礼は神社仏閣を巡りながら御朱印を拝受するものとして認識されてきた。近世以降¹⁾、巡礼は修行に加え物見遊山としての意味を包含し、聖から俗へと意味を拡大することで、地域にあるひとつの観光資源として役割を担ってきた。そうした中で、霊場巡礼は観光資源としての魅力が近年注目され、ガイドブックなどのメディアを通して紹介されている。なかでも市町村が作成するパンフレット中の散策ルートマップ²⁾では、霊場周辺に分布する観光スポットが巡礼路と合わせて示され、霊場を巡りながら沿道の観光要素と連携させる表現が読み取れる。これは、現代社会における聖俗混淆の価値によって形成される領域イメージを示していると考えられる。そこで本研究では霊場巡礼の散策ルートマップを資料に、その地図表現を分析することで、現代社会における地域観光の領域イメージの一端を明らかにすることを目的とする。

2. 巡礼マップにみる霊場巡礼の散策性 資料とした霊場巡礼の散策ルートマップ（以下、巡礼マップ）では、図1の分析例のように霊場のある神社仏閣に限らず公園や史跡といった周辺地域の様々な要素が示されている。さらに、分析例ではそれらを巡るルート（以下、巡礼ルート）がマップ内の点線やマップ右上の図によって提示され、霊場とともに地域を巡る経路が強調されている。本章では、巡礼マップに描かれる要素の内容と、巡礼ルートの

描画形式から、霊場巡礼の散策性を検討する。

2-1. 巡礼マップの構成要素 まず、巡礼マップに描かれる要素を構成要素としてその内容を検討し、巡礼の対象である神社仏閣を霊場要素、それ以外を日常要素に大別した（表1）。日常要素は、公園や海などの自然要素、史跡や資料館などの文化施設、ホテルや温泉などの商業施設、飲食店や土産屋などの店舗、駅やバス停などの交通機関、案内所や公民館などの公益施設に分類した。また、巡礼ルートには移動手段が描かれる場合があり、徒歩、車、バス、電車、自転車がみられた（表2）。

2-2. 巡礼ルートの描画形式 次に、巡礼ルートの描画形式について、巡礼マップにおける巡礼ルートの強調表現の有無を検討した（図3）。巡礼ルートが強調されるものについては、その形状から〈リニア型〉、〈環状型〉に分類した。巡礼ルートが強調されないものについては、霊場周辺の主要な道路を強調する〈幹線型〉、特定の地域を強調する〈エリア型〉、強調表現がみられない〈フリー型〉に分類した。

2-3. 巡礼ルートの散策性 前述したように、巡礼マップには、マップ内での強調表現の有無に関わらず、別枠で巡礼ルートを図示する物が多くみられた³⁾。そこで、これらの図中に提示された日常要素を霊場巡礼観光における重要度の高い要素と捉え、「目的地」とした。さらに、巡礼ルートの図には示されないものの紹介文や写真を

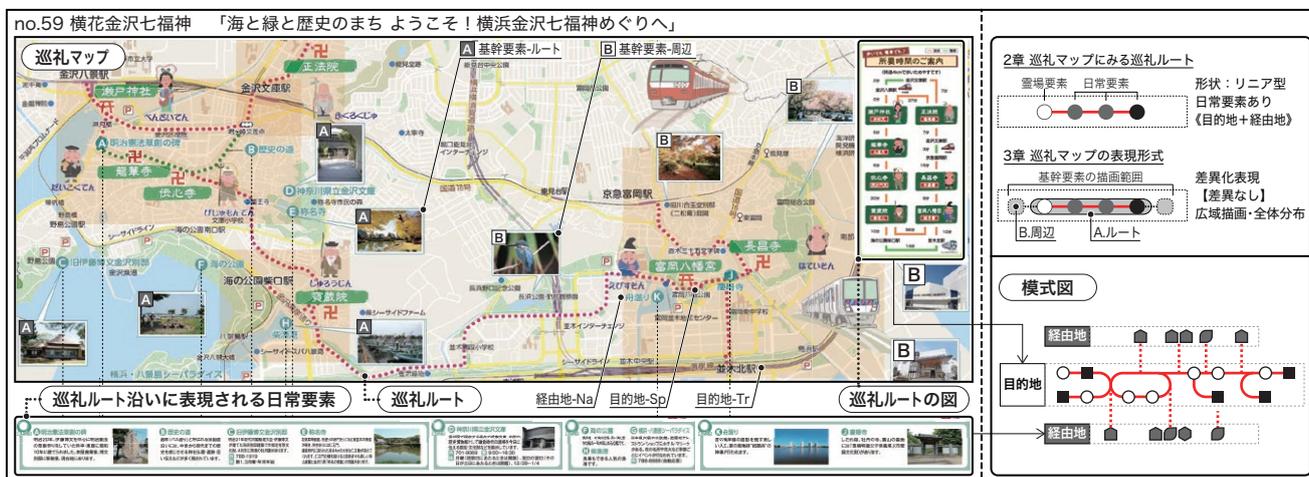


図1 分析例

伴って紹介される日常要素を目的地に準ずる《経由地》とした。以上をふまえ、巡礼ルートにおける日常要素および《目的地》、《経由地》の有無と前節で検討した巡礼ルートの描画形式との対応関係および日常要素の内容の割合を図4に示した。その結果、〈リニア型〉は《目的地》と《経由地》が同程度みられたのに対し、〈環状型〉は《目的地》と《経由地》をあわせて提示するものが大半を占めた。このことから、〈環状型〉は回遊性を強調する傾向があることがわかった。さらに巡礼ルートの強調表現のない〈幹線型〉と〈エリア型〉について、前者は《経由地》が多く、回遊性を強調するのに対して、後者は《目的地》が多く、経路性を強調するという異なる傾向がみられた。また、日常要素なしは〈フリー型〉が大半で、霊場要素のみを巡るものとして提示されている。

3. 巡礼マップの領域的性格 前章で示した構成要素は、イラストや記号を用いた表現によって他の要素と差異化されることがある。さらに、分析例では巡礼ルートから離れた海や駅といった遠方の範囲まで描かれている。本章では、差異化して描かれる構成要素の分布と、描画範囲から、巡礼マップの領域表現を検討する。

3-1. 構成要素の描画表現 まず、構成要素の描画表現について、イラストや写真による立体表現、区画や平面による面表現、記号や文字による点表現の順に具体度の高い表現として捉えた(図5)。そして、日常要素のうち描画表現の具体度が最も高いものを基幹要素と定義し、その分布から、巡礼ルートの日常要素を差異化する[ルート優位]、周辺の要素を差異化する[周辺優位]、巡礼ルートと周辺を同程度に表現する[差異なし]に分類した(図6)。**[差異なし]**が最も多く、周辺と一体的な関係を示すものが多いことがわかった。基幹要素の種類数は3種類以上が多く、様々な日常要素を強調するのに対して、**[ルート優位]**や**[周辺優位]**は1種類が多く、特定の日常要素が強調される傾向がみられた。

3-2. 巡礼マップの描画範囲と基幹要素の分布範囲

次に、巡礼マップの描画範囲について検討し、巡礼ルート沿いにマップがトリミングされるものを限定描画、巡礼ルート周辺の広域な地域を描くものを広域描画に大別した(図7)。さらに前章で検討した巡礼ルートの描画形式との対応関係および基幹要素の巡礼ルートに対する分布範囲を検討し、I 強調あり・限定、II 強調あり・広域、III 強調なし・限定、IV 強調なし・広域として位置付けた(図8)。さらに、描画範囲における基幹要素の分布の範囲

表1 巡礼マップの構成要素

霊場要素		日常要素				
神社仏閣 Sp 巡礼対象の神社仏閣	自然要素 Na 公園 桜並木 河川など	文化施設 Cu 博物館 美術館 史跡など	商業施設 Co デパート ホテル 市場など	店舗 S 飲食店 土産屋 小売店など	公益施設 Pu 案内所 公民館 学校など	交通機関 Tr 駅 バス停

表2 巡礼ルートの推奨移動手段

徒歩	車	バス	電車	自転車
——	——	——	——	——

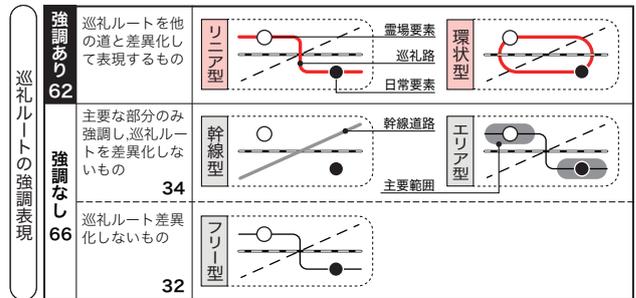


図3 巡礼ルートの描画形式

	日常要素あり 114			日常要素なし 14
	目的地 38	目的地+経由地 38	経由地 38	巡礼ルートが日常要素を含まずに、霊場要素のみで構成
リニア型	10 (Cu, Tr)	10 (Cu, Tr)	14 (Cu, S)	1 (Cu, S)
環状型	3 (Tr)	21 (Na, S)	3 (Cu, S)	0
幹線型	5 (Cu)	5 (Cu)	10 (Na, Cu, Co)	2 (Cu)
エリア型	8 (Cu, Tr)	2 (Cu)	2 (Cu)	0
フリー型	12 (Tr)	0	9 (Cu, S)	11 (Cu, S)

凡例: ● 目的地, ○ 経由地, 〇 日常要素

図4 巡礼ルートの描画形式と日常要素の割合

立体表現 (i)	面表現 (p)	点表現 (d)
イラスト, 写真	区画, 平面	記号, 点・文字

図5 構成要素の描画表現

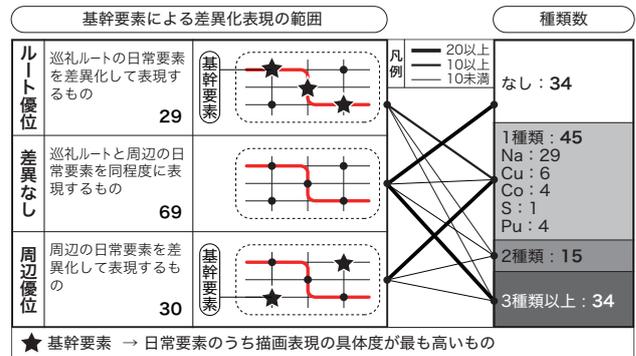


図6 基幹要素による差異化表現の範囲とその種類数

も検討し、全体分布、部分分布、分布なしに分類した。巡礼マップの描画範囲は巡礼ルート強調の有無によらず広域描画でさらに広域へと散策を促すような表現が多いことがわかった。

3-3. 巡礼マップの領域的性格 ここまでに分析した基幹要素による差異化表現の範囲と描画形式との対応関係から巡礼マップの領域的性格を検討する(表3)。**[ルート優位]**はIV、**[周辺優位]**はIIがそれぞれ半数近くを占めた。基幹要素の描画表現をみると、前者では全体分布、部分分布ともに基幹要素を立体表現により強調するものであり、巡礼ルートで巡ることのできる日常要素をより具体的に示す傾向がみられた。これに対し、後者では部分分布が多く、基幹要素は面表現が多かった。これは、地域固有の山や川といった地理的特徴から、巡礼ルートの所在する地域の魅力を提示しようとするものといえる。**[差異なし]**はII、IVが多くみられた。IIは基幹要素が立体表現によるものが大半で、その多くは複数種類であったことから、巡礼ルートに関わらず地域の様々な要素を魅力として表現するものであった。

4. 巡礼ルートと基幹要素にみる地域観光の領域イメージ

巡礼マップにみられる地域観光の領域イメージについて、前章までに検討した巡礼ルートの描画形式と基幹要素の差異化表現との対応関係を検討した(図10)。まず、**[ルート優位]**は巡礼ルートを強調しない割合が比較的多く、**[差異なし]**は巡礼ルートを強調するものの割合が高かった。前節で、**[ルート優位]**は描画表現の具体度が高かったことをふまえると、霊場近傍の日常要素を具体的に示すものは経路を強調せず、散策の自由度を担保するのに対して、霊場から離れた日常要素を強調するものは巡礼の経路を明示し、経路との位置関係から周辺の観光資源への散策を促すという傾向が見出せた。次に、基幹要素の分布の内訳を検討し、(A)から(F)の典型を見出した(図10右)。以下、それらの内容について説明する。**[ルート優位]**は地域が観光地としてのまとまりをもつものが多くみられた。(A)環状幹線型は熱海温泉の温泉街や池上本願寺の寺町商店街といった観光地を通過するように巡礼ルートを設定し、周辺地域の観光を統合する線として示すものと考えられる。(B)幹線部分型は山形の城下町や山口の湯田温泉街といった地方の観光地に多くみられ、観光地の大通り近傍の日常要素を表現することで巡礼の回遊性を強調する点が複数集中して示されている。**[差異なし]**は巡礼ルート周辺か

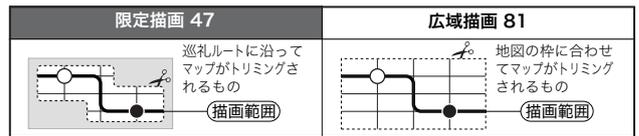


図7 巡礼マップの描画範囲

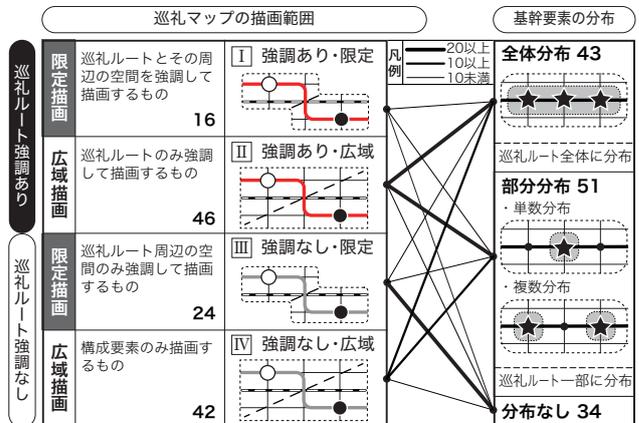


図8 巡礼マップの描画形式と基幹要素の分布範囲

表3 巡礼マップの表現形式

		基幹要素による差異化表現の範囲																	
		ルート優位 29						差異なし 69						周辺優位 30					
巡礼マップの描画形式	I 強調あり・限定 16	13	北本	全	i	i	p	15-1	川口	全	3	i	i	92-1	池田	全	3	d	i
		68	岡崎-2	全	1	2	3	31	彦原	全	2	1	i	i	92-2	池田	全	3	d
		70	大府	全	i	i	i	32	深川	全	1	1	i	i	92-3	池田	全	3	d
		67	岡崎-1	全	1	1	1	48	亀戸-1	全	1	1	i	i	21	武州川口	全	1	d
II 強調あり・広域 46	34	調布	全	3	3	d	18	武州本庄-1	全	2	2	i	i	14-1	川越	全	1	d	
	62-1	熱海	全	3	3	d	27	下総	全	2	2	i	i	14-2	川越	全	1	d	
	62-2	熱海	全	3	3	d	29	雄司が谷	全	2	2	i	i	14-3	川越	全	1	d	
	30	池上	全	2	2	i	45	品川-1	全	2	2	3	i	8	今市	全	1	d	
III 強調なし・限定 24	37	隅田	部	2	2	i	55	多摩川-1	全	3	3	i	i	22	所沢	部	1	d	
	51	八王子-1	部	1	1	i	59	横浜	全	3	3	i	i	28	九十九里浜	部	1	d	
	52	八王子-2	部	1	1	i	60-1	南栗野	全	1	1	i	i	36	新宿	部	1	d	
	74	金沢-2	部	1	1	p	60-2	南栗野	全	1	1	i	i	38	千寿	部	1	d	
IV 強調なし・広域 42	43	台東-2	全	3	3	d	64	源氏山-2	全	3	3	i	i	53	八王子-1	部	1	d	
	60-4	南栗野	全	1	1	i	72	岡崎南部	全	1	1	i	i	54	八王子-2	部	1	d	
	60-5	山形	全	1	1	p	76	松原	全	1	1	p	p	56	八王子-4	部	1	d	
	1	山形	全	1	1	p	82	広島二葉山	全	3	3	3	i	i	73	金沢-1	部	2	i

(凡例)
 ①no
 ②地域名
 ③基幹要素の描画範囲
 ④基幹要素の種類数
 ⑤ルートの日常要素の描画表現
 ⑥周辺の日常要素の描画表現

らさらに広域な地点に観光地をもつものが多くみられた。(C)リニア全体型は広島のマツダスタジアムや横浜の八景島シーパラダイスといった有名な日常要素を包含させるといった線から広がる要素を示すものと考えられる。(D)環状全体型は、巡礼ルートで巡る日常要素に加え、環状型で囲われた内側と外側に日常要素をもつことから線の内側と外側に広がる要素を示すものと推測できる。[周辺優位]は地域固有の山や川といった地理的な要素を魅力とするものが多くみられた。(E)リニア部分型は関東地方の都市に偏りが見られ、駅からのアクセスを巡礼ルートにより強調し、その周辺にある公園や河川といった魅力を点で示している。(F)フリー部分型は複数の自然要素を点で示し、回遊性を強調するネットワークが形成されているものと考えられる。

5. 結 以上、霊場巡礼の散策ルートマップを資料に、霊場巡礼の散策性と巡礼マップの領域表現を検討した。その結果、霊場および近傍の地域の観光資源を点の集合として表し、散策の自由度を担保するものとそれらを経路として結ぶことで周辺地域の統合を線として表すものという巡礼マップにおける2つの特徴的な領域イメージを見出した。点で表すものは特徴ある観光資源という俗の側面が強く、線で表すものは巡礼路の聖としての性質に関わりながら俗としての性質を提示するものと捉えられ、聖俗混濁による地域観光の領域イメージの2つの異なるあり方を示すと考えられる。

- 註) 1) 星野英紀、『巡礼 - 聖と俗の現象学』、講談社現代新書、1981年、p42
 2) ここでは観光ガイドブックなどで紹介される頻度が高い全国の霊場巡礼を対象とし、散策ルートマップの96資料から確認できた128の巡礼ルートを資料としている。
 3) 128の資料のうち、巡礼ルートの図が示されたものは72資料みられた。

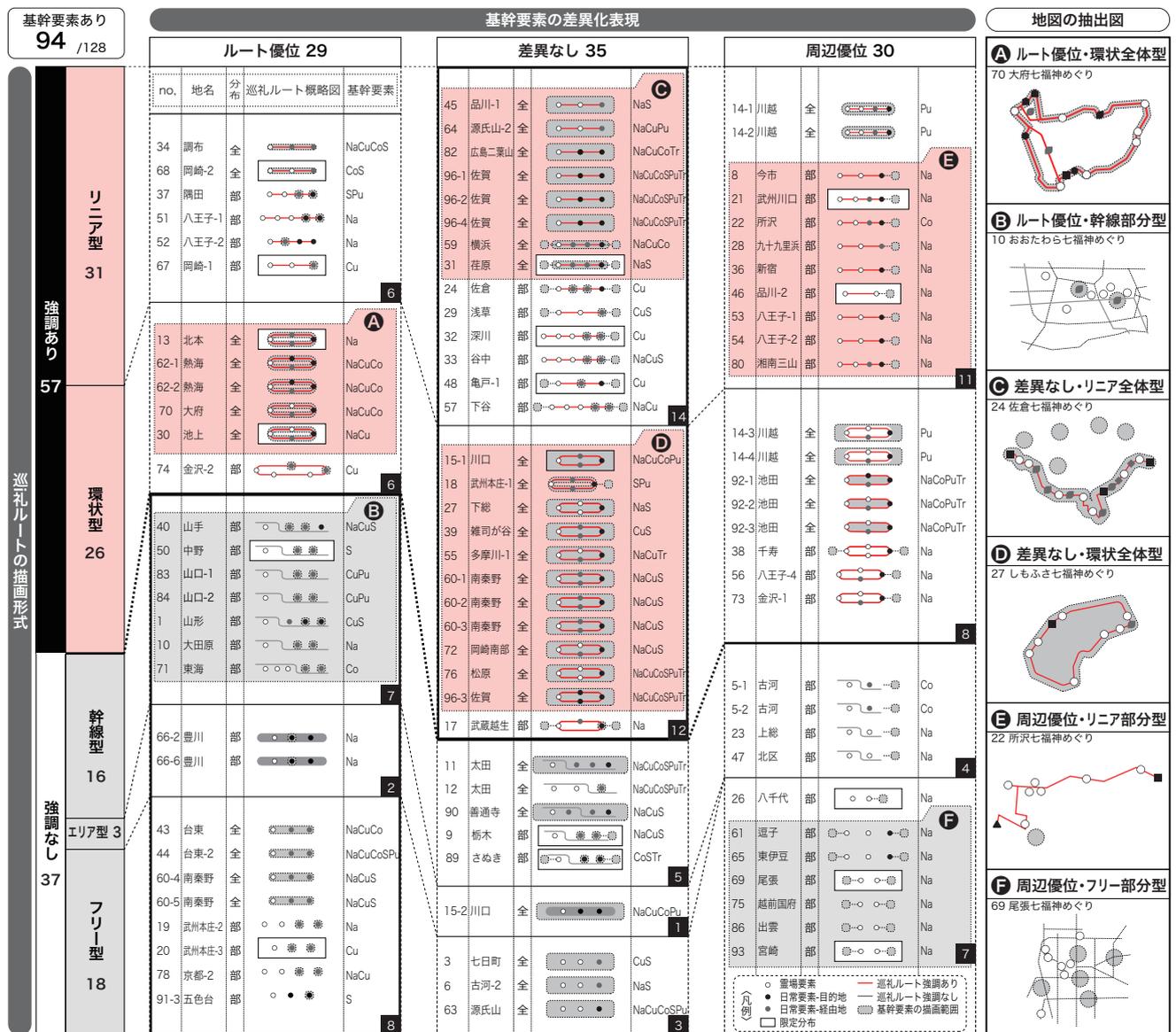


図10 巡礼ルートの描画形式と基幹要素の関係

図註) 基幹要素なしの34資料の巡礼ルートは全て差異なしとして分類した